新聞　第3種郵便物認可

ほんわか笑顔 包装紙に

安城養護学校生がデザイナーに

高浜の企業販売

高浜市の豆腐製造会社「おとうふ工房いしかわ」は2月1日から、安城市の県立安城養護学校に通う知的障害者らが描いた絵を配したオリジナル紙袋と包装紙を買い物客に販売する。収益金の一部は障害者の支援活動に役立てられる。

障害者らがデザインしたカラフルな段ボール箱「だんだんボックス」の販売をする市民団体「だんだんボックス実行委員会」が協力した。委員会は2010年に発足し、障害者が持つ絵の才能を引き出し、仕事や収入を得るための応援をしている。

おとうふ工房いしかわはその活動に賛同。昨年春から準備をはじめ、夏休みを利用し、「笑顔で食べる」をテーマに同校の児童・生徒から作品を募集した。100点余りの応募の中から、卒業生1人を含む小学部4年から高等部3年までの10人の作品が採用され、「デザイナー」としてデビューが決まった。

採用された作品を使い、ロボットやサイ、ゴリラ、犬などが描かれた紙袋と、食べ物に囲まれて笑顔を見せる子どもを配した包装紙が完成した。紙袋は1枚50円、包装紙はギフト商品のラッピング用として使う。

同校の伊沢裕司校長は「すてきな絵が選ばれ、生徒たちの励みになります」と喜ぶ。同社が経営する「とうふや豆蔵」など県内19カ所の店舗で手に入れることができる。

問い合わせは、おとうふ工房いしかわ（0566・54・0330）。（松永佳伸）

上紙袋と包装紙のデザインをした県立安城養護学校の児童と生徒＝碧南市田尻町
下県立安城養護学校の児童、生徒がデザインした紙袋と包装紙

養護学校過密化 解消へ計画作成

知事方針、新年度めど

県内の養護学校の「過密化」が進んでいることを受け、大村秀章知事は21日の定例記者会見で、「新年度をめどに、方向性や考えを盛り込んだ計画を取りまとめたい」と、解消に取り組む方針を表明した。

「過密化」は、有識者らが県内の教育問題を議論した18日の「教育懇談会」で指摘された。知的障害のある子どもたちが通う養護学校の児童・生徒数は、この10年で約1・5倍の約4700人に急増。児童・生徒数が400人を超える大規模校は県内に6校あり、全国の計11校のうち半数以上を占めている。

大村知事は21日の記者会見で「会議の議題にしたということは、しっかり取り組むということだ」と述べた上で、「学校の建物を造るだけでなく、養護教師の養成など、しっかりした方向付けを新年度にやりたい。県教委には、そう指示している」と述べた。